

【特別支援学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立唐津特別支援学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標に沿った教育活動を実施することができた。コロナ禍の影響が残った学校生活となったが、学校行事や学習活動を工夫し予定どおりの活動を行うことができ、児童生徒の主体的に学ぶ意欲や活動を後押しすることができた。 令和6年度においては、本年度の反省を生かし、更に工夫を重ねながら、充実したよりよい教育活動を行いたい。また、児童生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう、学校、家庭、地域と連携しながら学校の教育目標を実現したい。 時間外在校等時間の一層の削減に向けて業務内容や行事の在り方について精選しながら働きやすい職場の実現に取り組みたい。
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	児童生徒一人一人に応じた教育活動を通して、子どもたちの持つ可能性をできる限り広げ、校訓にうたっている「明るく元気に生きる力」「心豊かに生活する力」「たくましく自立し社会に参加する力」をはぐくむとともに、他人を思いやることのできる児童生徒を育成する。
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが今日の学校生活に満足し、明日の学校生活を期待することができる学校をつくる。 ○子どもが今日の学校生活を「自分から」「自分で」取り組み、「やりがい」「手ごたえ」を感じ、「精一杯」「存分に」活動し、「充実感」「満足感」に浸ることができる学校をつくる。 ○業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減を行い、働きやすい職場の実現を目指す。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標(数値目標)					
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着 ○小中高12年間の一貫した教育の推進	○個別の教育支援計画・個別の指導計画作成に当たり、十分な相談や説明があったと回答する保護者の割合70%以上 ○個別の指導計画を適切な指導・支援に生かすことができたと回答する職員の割合70%以上	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画について、個人面談前に各学部の係で適切な指導・助言を行う。 個別の教育支援計画は保護者と共に作成するという意識をもち、相談や説明を行う。 個別の指導計画について、早下校と合わせて読み合わせを計画して作成時間を確保し、級外も加わって内容の検討の充実を図る。 学部間の情報交換や進級等の際の引継ぎを計画的に行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画については、係等の助言を担任に行い、保護者や関係機関への担任等の説明や相談がしっかり行われていた。そのため、保護者アンケートでは、十分な相談や説明がなされたと思うとの回答が100%であった。 個別の指導計画を適切な指導・支援に生かすことができたと回答する職員の割合は90%以上であった。 個別の指導計画や進級等に関する引継ぎに関しては、行う時間を設定して実施した。しかし、児童生徒の指導支援に必要な内容がおさえられているかについて職員の意識を高める工夫が必要と考えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援計画が一人一人の能力を過小評価することなく合理的配慮を組み込んだ形であることを望む。 児童生徒の支援に必要な内容は十分検討しながら取り組んでほしい。
	○特別支援教育の専門性の向上	○自らの特別支援教育の専門性が向上したと思うと回答する職員の割合70%以上	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関する研修会を年間を通して計画的に実施する。 毎月自立活動に関する研修会を行う。 自立活動だよりを定期的に発行し、情報提供に努める。 児童生徒の主体的な学びや育ちにつながる授業づくりのため、各学部で各教科等を合わせた指導についての研修会や授業研究会を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員アンケートでも、自らの特別支援教育の専門性が向上したと回答する職員の割合は90%以上であった。 特別支援教育に関する講演、SCIによる研修、支援部主催の学習会など計画通りに実施でき好評であった。 研修や授業研究会等を通して、児童生徒が主体的に活動する授業づくりについて理解を深めた。 自立活動学習会はほぼ毎月実施した。乳児の運動発達を中心に、疾患や教材作成に関する知識、技能を深めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校と家庭が同じ方向性で向き合えなければならぬ。専門性を活かし、保護者と共有してほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○仲間とともに活動することにより達成感を味わい、コミュニケーションを取り合う力を育むことのできる活動・場面の設定、学期に2回以上	<ul style="list-style-type: none"> お互いを知り、思いやりの心を育むため、学部で知肢合同の単元を設定する。 様々な人々とコミュニケーションを取り合う力を育むため、交流及び共同学習や就業・施設体験、販売学習等を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 交流及び共同学習では、各学部年間計画通りに相手校と交流学習を行った。 中学部3年と高等部は個に応じて就業・施設体験を実施し、卒後の進路について考えることができた。 中・高合同の販売学習を通して、地域の方とふれあい、働く楽しさや喜びを感じることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な活動を通して児童生徒が生き生きとしている姿が見られた。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員は児童生徒の問題やトラブル等に適切に対応していると回答する保護者の割合80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の学校生活アンケートによるいじめの認知・認知をし、組織的に早期の対応を図る。 学校生活の中で起きた事案に対して、迅速に適切な対応をとる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間16件のいじめ認知を行ったが、学校生活アンケート等により早期発見早期対応ができ、大きな事案に発展することがなかったと考えている。保護者アンケートでも、95%の保護者が適切に対応できていると回答した。今後も丁寧かつ迅速な情報共有と組織的な対応を行うことで、いじめ防止に努めていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 認知したいじめは、今後も気にかけて見てほしいと思う。 いじめは実態を正確に把握できないことも多い。納得のいっていない5%の問題も大切に扱ってほしい。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●職員は、児童生徒のよいところを口頭や連絡帳などで保護者に伝えてくれると思うと回答する保護者の割合70%以上 ●児童生徒が今日の学校生活に満足し、明日の学校生活に期待することができるように、一人一人の実態に応じた指導をしていると回答する職員の割合	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対して、児童生徒の頑張りや成長を学級通信や連絡帳等で伝えていく。 学校生活の様々な場面において、意欲的に取り組むことができるように「できる状況づくり」を心がけ、職員全体で情報を共有し、一貫した支援を行う。 お互いの頑張りや認めたり、達成感を共有したり、次の単元へ向けた意欲をもたせたりするために、集会や単元終了会を設定する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学部内での合同単元や販売学習の単元では、集会や単元終了会の中で、それぞれの取り組みや感想を発表しあうことで、お互いの頑張りや認め合うことができた。保護者アンケートでは、95%以上の保護者が児童生徒のよいところを口頭や連絡帳などで保護者に伝えてくれていると回答した。 授業では、児童生徒一人一人が十分に学校生活に取り組めるようなできる状況づくりに取り組み、手立てをとり、支援や環境設定を行った。アンケートでは、95%以上の職員が一人一人の実態に応じた指導をしていると回答した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の「できる」を生きる力に変えられるよう努力されているのだと思う。 今後も自己肯定感を高める取り組みを続けてほしい。
	○明るく楽しい学校づくり	○児童生徒や保護者に対し、率先して挨拶や言葉かけを行い、明るい学校生活づくりに努めていると回答する職員・保護者の割合80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒や保護者に対し、笑顔添えて明るい挨拶や言葉かけを積極的に行い、明るく楽しい学校づくりに努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時には全職員が児童生徒や保護者の方に明るい挨拶をするように努めた。 アンケートでは、職員・保護者ともに95パーセント以上が児童生徒や保護者に対し、率先して挨拶や言葉かけを行い、明るい学校生活づくりに努めていると回答した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 明るい雰囲気伝わってくる。
●安全に関する資質・能力の育成	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	<ul style="list-style-type: none"> 「交通安全教室」や校外学習の事前学習等で児童生徒の実態に応じて交通ルールやマナーを学ぶ機会を設ける。 各月初めに単独通学生に対して、公共交通機関を利用する上の注意点や最近話題になった交通事故やトラブルなどの情報で注意喚起する。 各学期始めに通学指導として、登下校中の見守り指導や支援をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の交通事故は0(ゼロ)であった。 校外学習の事前学習等で交通マナーの学習に取り組んだ。 毎月第一金曜日の昼休みに、単独通学生を対象に公共交通機関を利用する上での注意点を説明した。また、映像を見せながら最近起こった身近な事故や事件を伝えて、規範意識を高めた。スマホアプリ「防災ネットあんあん」から入ってくる情報も必要な分だけ共有していった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 達成されていて素晴らしい。 	
●健康・体づくり							

	○安全防災及び安全衛生に係る教育の充実	○本校は、自然災害等に対する安全防災教育及び安全衛生について適切な対応をしていると回答する職員・保護者の割合80%以上	・安全防災教育における各種避難訓練を行い、自然災害等に対するの備えをし、児童生徒や職員の防災意識を高める。 ・保健だよりや各学級で手洗い・うがいの励行や熱中症予防を呼びかけ、継続的に指導する。	A	・職員・保護者ともに95%以上が自然災害等に対する安全防災教育及び安全衛生について適切な対応をしていると回答した。 ・自然災害や防犯等の各種避難訓練を通して、職員間の連携確認や児童生徒の防災や防犯に対する意識の向上に努めることができた。 ・児童生徒や保護者に対し、保健指導や文書等で感染症や熱中症予防等について継続的に注意喚起を行うことができた。	A	・有事に備え、実際に避難場所へ移動したり、一泊体験したりなどされると、なお良いと思う。 ・地域の方と一緒に防災訓練などを行うのもよいと思う。
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○本校は、特別支援教育のセンター的機能の充実を図り、地域教育機関や福祉機関と連携を図ることができていると回答する職員の割合70%以上 ○特別支援教育エリアリーダーと情報交換会等により連携を強化する。	・各学校の実態を踏まえた上で適切な支援内容や支援方法についての指導・助言を行う。 ・定期的な連絡会を計画し、福祉、医療などの関係機関との適切な連携、地域支援のためのネットワーク形成に努める。 ・特別支援教育エリアリーダーとの情報交換の機会を設け、地域支援についての情報交換を学期に一度は行う。	A	・地域の学校や園への巡回相談は、年間40件実施した。学校や園の状況に応じた支援方法の提案ができ、継続した助言を望まれる学校もあった。 ・関係機関との連絡会の実施、また、自立支援協議会での連携など年間を通して行うことができた。 ・特別支援教育エリアリーダーとの連携については、年2回の情報交換、巡回相談への同行を延べ6回実施した。 ・90%以上の職員が特別支援教育のセンター的機能の充実を図り、地域教育機関や福祉機関と連携を図ることができていると回答した。	A	・特別支援学校での実態把握の仕方や専門技術を積極的に発信してほしいと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤推進日とし、うち2回は完全定時退勤日とする。 ・個人研修の日やパーソナルタイムにより個人の業務時間を確保する。 ・会議時間の短縮を図るため、会議内容を精査し、時間配分を決めていく。	B	・月2回の完全定時退勤日が浸透してきたことにより、毎週金曜日の定時退勤も職員のほとんどが意識するようになった。 ・ひと月の時間外在校等時間の平均は、年間を通して前年度より減少した。	B	・外部講師やボランティアなど、積極的に活用してほしい。 ・完全定時退勤日が月2回から月4回になるよう推進してほしい。
	○職員一人一人の業務に対する意識改革	○業務の効率化を考え、働き方の改善を意識したと回答する職員の割合70%以上	・業務の効率化のアイデアを一人一人が持ち、実践するよう働きかける。 ・管理職が時間外在校等時間に行われている業務を把握し、改善へ向けた調整を行う。	B	・職員の80%が業務の効率化を考え、働き方の改善を意識したと回答したことから、職員一人一人の意識改革は図られたものと考えられる。 ・職員間や時期により業務量に偏りがある点については、今後さらに対策が必要である。	B	・業務効率化を理解はできるが実践が難しいというのが現状なのだと思う。 ・業務が特定の担当者だけに偏らないよう努めてほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○進路指導	○一人一人に即した進路指導の充実	○児童生徒及び保護者のニーズに応じた情報を提供し、将来を見据えた指導・支援を行うことができていると回答する保護者の割合70%以上	・保護者向けの進路学習会を、年齢や時期に応じて適切に実施する。 ・福祉サービス事業所の情報収集、提供に努める。 ・生徒の就業・施設体験先としての新規の企業や事業所を開拓する。	A	・アンケートの結果、95%以上の保護者がニーズに応じた情報提供や将来を見据えた指導・支援ができていると思うと回答した。 ・福祉サービス利用やアセスメントについての説明会を実施した。 ・福祉サービス事業所の情報を収集し、担任を通じて必要な保護者に伝えることができた。 ・高等部3年生の卒業後の進路先は、ほぼ決定した。新規の企業や事業所から就業・施設体験の体験先や進路先として受け入れてもらえた。	A	・進路先がほぼ決定したことは素晴らしい。進路の新規開拓を進めてほしい。 ・障害の重い生徒も安心して通える場所が必要だ。事業所や行政にも働きかけをしてほしいと思う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・職員や保護者のアンケート数値を成果指標とした項目については、目標を達成できた。また、それ以外の項目についても、当初計画していた取り組み内容をほぼ実施することができた。</p> <p>・アンケートの結果から、学校の教育活動に対して保護者の理解と協力を得られていることが伺えた。今後も児童生徒の主体的に学ぶ意欲を引き出し、児童生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう、学校、家庭、地域と連携しながら教育活動を進めていきたい。</p> <p>・教職員の働き方改革については、一人一人の業務に対する意識改革の面で一定の成果が得られた。引き続き、時間外在校等時間の一層の削減に向けて、業務内容や行事の在り方を見直しながら働きやすい職場の実現に取り組むたい。</p>
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------